



とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	世田谷区喜多見 2-10-41-101
園名	世田谷区立小梅保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『もっと遊びたい！』積み木に触れて、感じて、想像して

<テーマの設定理由>

積み木は、クラスや異年齢でも遊びの中でよく触れて遊んでいる姿がありました。保育室だけでなく、広い空間や積み木を多く置く部屋を活用して、様々な積み木を整えることで、遊びの幅をさらに広げたり、友達とイメージを共有したりして遊んでいきたいと考えました。さらに年齢に応じた環境・空間作りの工夫や様々な積み木に触れることで育まれる力などをより探求し、一人ひとりの発達、育ちを保障していく保育を目指したいという思いを持ちました。

2. 活動スケジュール

6月 グループ(1児クラス・5歳児クラス・ホール)に分かれてテーマ決め。
1歳…「もっと遊びたい！」をテーマに、保育室内を子ども達一人ひとりがじっくりと遊べるよう見直し、積み木遊びコーナーを充実。
5歳…木の玩具でじっくりと遊びこめるように環境作り。遊んでいく中で、創造力や想像力を育む。
ホール…大型積み木(ウレタン)・移動棚を活用し、身体を動かす遊びだけでないホールでの様々な遊びを展開。
6・7月(グループごとに自分たちが考える必要な物品を検討し購入)
8・9・10月(子どもと共に探究活動の実践、記録、振り返り)
11・12月(職員の環境学習。子どもの姿に合わせ環境を整え、更に足りない物を購入)
1月(整った環境から、グループごとに実践の経過・報告。引き続き探究活動を実践し、記録、振り返り)
2月(今年度の実践の報告を職員間で共有し、次年度にむけて話し合い)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

一人ひとりがじっくりと遊べるよう棚や可動式の棚を設置して空間づくりを工夫しました。年齢に応じて様々な種類の積み木を用意したり組み合わせたりして、子どもの発想やイメージに寄り添えるよう環境を整え働きかけてきました。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

6・7月(1歳・5歳・ホールでのもっと遊びたい環境を考え、積み木玩具の購入)
8・9・10月(実際に遊んでみて、子ども達の姿からエピソードをとり、振り返り)
11・12月(年齢毎の遊びや、いくつかのエピソードを分析し、さらに何が必要かを考察)
1月(各グループの実践を報告)
2月(今年度の活動全体の報告と反省を共有し、次年度にむけて検討)

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>



乳児クラスは、“これはなんだろう？”とどの積み木にも触ってみたいくなり、あちこちと動きながらいろいろな積み木に触れていました。そして、“これが面白そう！”と思うと、じっくり座り込み繰り返し遊ぶ姿もありました。このボックス積み木は、5面に大中小の穴が空いていて、大中小の大きさの違う丸い円

盤型の積み木を入れて遊びます。はじめはどうなっているんだろう？と覗き込んだり、円盤型の積み木をいろいろな穴に入れてみたりしていました。“あれ？穴に入らない。ん？”と考え、どこなのかな？とまた探す姿があり、何パターンも遊び方があるので何度も試していました。



「カプラでお家を作ろう」と始まった遊びです。友達と「これは、ここに置こうよ」「並べた方がいいかな」相談しながら作り、じわじわ大きくなっていきました。じっくりと一つ一つ積み木を重ねる集中力、まだまだ大きくしたいと時間をかけて作っていく持久力、仲間と一緒に作りあげる達成感が見ていてどんどん感じました。さすが、4歳クラスの子ども達です。最後は、大人も子供も、変わる変わる中に入り、そして、最後にはガラガラガシャーン」と崩れました。積み木は崩すことも楽しめる遊びであるということを改めて子ども達と感じた瞬間でした。



ひとりで建物を作り始めました。周りの様子を気にすることなく没頭。離れたところで保育士は家を作り始めました。保育士の作る様子に、興味を持った別の子がそばに来て作りはしないものの、「何作ってるの?」と聞き出し保育士とやり取りを楽しんでいました。ひとりで作っていた子が建物に道を作り始めたところで保育士が「こっちの建物のつながるかなあ・・・」と投げかけてみると、はりきってカプラの道を並べてつなげ始めました。

自分の建物と保育士の建物がつながると満足そうな表情。その後は保育士と一緒に建物を大きくしたり、屋根を作ったりさらにイメージを形にしながら遊んでいました。子どもの集中する姿を大事に、どこで声をかけるかを気にかけることで、子どもの意欲がさらに広がり発展した。物的だけでなく人的環境の大切さを実感した場面でした。



5. 振り返り

大人は、積み木遊びの正解のような物を求めてしまいがちですが、子どもが作り出す積み木の世界を見て、正解はないことを体感しました。

ホールでの積み木遊びを継続して行ってきたことで、保育士自身、次はどんな遊びをしようかなと積み木遊びを楽しみにするようになりました。そして、その時々でテーマを設けて行ったことで、子ども達がそれに対してどんな遊びをしているのかな?と視点を持ってました。今年度は、どんな遊びをしているのかな?とあえて見ていることも多かったので、もっと子どもと遊びこむこともやってみたいという思いと、それによる子ども達の遊びの広がりへの研究、保育士の遊びの力も深めていきたいと思いました。